
silver-soul

たいむぱーそん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

silver-soul

【Nコード】

N6421J

【作者名】

たいむぱーそん

【あらすじ】

沖田「俺が副長になって初めてのお花見ですぜイ」

土方「嘘ついてんじゃないやねエ!!」

沖田「いいじゃないですかイ?もう直ぐ春なんだし」

お妙「ハイ お弁当ですよ」

銀時「ワリーなオイ

姉弟水入らずのどこ

邪魔しちまって」

お妙「いいのよ」

二人で花見なんて

しても寂しいもの

ねえ 新ちゃん？

お父上が健在の

頃は よく三人

桜の下でハジけた

ものだわ」

さっ

お食べになつて」

銀時「じゃ

遠慮なく・・・」

カパ（フタを開ける）

神楽「！」

（弁当の中に真っ黒い塊）

銀時「何ですか

コレは？

アート？」

お妙「私 卵焼きしか

作れないの」

銀時「卵焼き」じゃ

ねーだろコレは

“焼けた卵”だよ

お妙「卵が焼けていれば

それがどんな状態

だろーと卵焼きよ」

銀時「違うよ コレは

卵焼きじゃなくて

かわいそうな卵だよ」

お妙「いいから 男は

だまって食えや！」

ガパン（詰め込ませる音）

神楽「これを食べないと

私は死ぬんだ・・・

これを食べないと

私は死ぬんだ・・・」

新八「暗示かけてまで

食わんでいいわ！！

止めときなつて！

僕のように

眼が悪くなるよ」

近藤「ガハハハハ

全くしよーがない

奴等だな

どれ 俺が

食べてやるから

このタッパーに

入れておきなさい」

全員「……………」

お妙「何 レギュラー

みたいな顔して

座ってんだゴリラアア!!」

どっから

わいてでた!!」

ドパン（はたく音）

近藤「たばア!!」

銀時「オイオイ

まだストーカー

被害にあってたのか

町奉行に

相談した方が

いいって」

ガッゴツガッ（殴る音）

新八「いや あの人が

警察らしーんスよ」

銀時「世も末だな」

土方「悪かったな」

銀時「オウ オウ

ムサイ連中が

ぞろぞろと

何のようですか？

キノコ狩りですか？」

土方「そこをどけ

そこは毎年

真選組が花見を

する際に使う
特別席だ」

銀時「どーゆー

言いがかりだ？

こんなもんどこでも

同じだろーが

チンピラ警察

24時か てめーら」

土方「同じじゃねえ

そこから見える桜は

格別なんだよ

なア みんな？」

隊士「別に俺達や

酒飲めりやどこでも

いいツスわ」

沖田「アスファルトの

上だろーと

どこだろーと

構いませんぜ

酒のためなら

アスファルトに咲く

花のよーに

なれますぜ！」

土方「・・・

うるせエエー！！

ホントは俺も

どーでもいーんだが

コイツのために
場所変更しなきゃ
ならねーのが
気に入わねー！！

大体 山崎
場所とりに

いかせたはずだろ・・・
どこいった アイツ？」

沖田「ミントン
やってますぜ

ミントン」

土方「山崎イイイ！！！」

ガッゴツバキツ（殴る音）

山崎「ギャアアアア！！」

新八「・・・」近藤「まア とにかく

そーゆうこと

なんだ

こちらも

毎年恒例の行事なんで

おいそれと

変更できん

お妙さんだけ

残して去って

もらおうか」

土方「いや お妙さんごと

去ってもらおうか」

近藤「いや お妙さんは

ダメだつてば」

銀時「何 勝手
ぬかしてんだ

幕臣だか

なんだか

しらねーがなア

俺たちを

どかしてーなら

ブルドーザーでも

持ってこいよ」

お妙「ハーゲンダッツ

1ダース

持ってこいよ」

神楽「フライド

チキンの皮

持ってこいよ」

定春「フシユー（怒）」

新八「案外 お前ら

簡単に動くな」

土方「面白エ

幕府に

逆らうか？

今年は

桜じゃなく

血の舞う花見に

なりそーだな・・・

てめーとは

毎回こうなる

運命のよーだ

こないだの

飯は返させて

もらうぜ！」

沖田「待ちなせエー！！」

土方「！」沖田「堅気の皆さんが

まったりこいてる場で

チャンバラたア

いただけねーや

ここは ひとつ

花見らしく決着

つけましょーや

第一回

陣地争奪・・・

叩いて かぶって

ジャンケンポン

大会iiiiiiiiiiii！！」

全員「花見 関係

ねーじゃん！！」

ヤジ「いけエエ

局長オ！！

死ねエ

副長！！」

土方「誰だ今

死ねつつたの！！

切腹だコラア！！」

山崎「えー 勝敗は

両陣営代表

三人による勝負で

決まります

審判も公平を期して

両陣営から

新八君と俺 山崎が

務めさせてもらいます

勝った方は

ここで花見をする

権利＋お妙さんを

得るわけです」

新八「何 その勝手な

ルール！！

あんたら山賊！？

それじゃ 僕ら

勝ってもプラマイゼロ

でしょーが！！」

山崎「じゃ君らは

＋真選組ソーセージだ！

屯所の冷蔵庫に

入ってた」

新八「要するに ただの

ソーセージじゃねーか！！

いるかアアア！！」

銀時「ソーセージ

だつてよ

気張つてこーぜ」

神楽「オウ」

新八「バカかー！！」

お前ら

バカかー！！」

山崎「それでは

一戦目

近藤局長

VS

お妙さん」

新八「姉上 無理

しないでください

僕代わりますよ」

お妙「いえ 私が

いけないと

意味がないの・・・

あの人

どんなに潰しても

立ちあがってくるの

もう 私

疲れちゃった

全て

終わらせてくるわ」

新八《ヤバイ

あの眼は・・・

山崎「ハイ！！

叩いてかぶって

ジャンケンポン!!」

・・・殺る気だ」

近藤「お　　と

セーフ!!」

新八「セーフじゃない!!

逃げろ

近藤さん!!」

近藤「え？」

お妙「天魔外道皆仏性四魔

三障成道来魔界仏界

同如理一相平等・・・」

近藤「ちよっ・・・

お妙さん？

コレ・・・　もう

ヘルメットかぶってる

から・・・　ちよっと？」

ドゴ（ヘルメットが割れる音）

ドシャアア（倒れる音）

全員「・・・・・・・・

・・・ルール

関係ねーじゃん」

隊士「局長オオオオオオ

てめエ　何しやがんだ

クソ女アア!!」

お妙「あゝ~~~~~

やんのかコラ」

全員「すみませんでした」

山崎「新八君

君も大変だね・・・」

新八「もう

慣れましたよ」

山崎「えーと

局長が戦闘

不能になったので

一戦目は

無効試合と

させていただきます

二戦目の人は

最低限のルールは

守ってください・・・

・・・!!」

隊士「おゝおゝおゝ

もう始まってんぞ

速エエ!!

ものスゲエ速エエ!!

あまりの速さに

二人ともメットと

ハンマーを持った

ままのよーに

見えるぞ!!」土方「ホウ

総悟と互角に

やりあうたア

何者だ あの娘?

奴ア 頭は空だが

腕は真選組でも
最強をうたわれる
男だぜ・・・」

銀時「互角だア？

ウチの神楽にヒトが
勝てると思つてんの？
奴はなア 絶滅寸前の
戦鬪種族“夜兎”

なんだぜ

スゴいんだぜ」

土方「なんだと

ウチの総悟

なんかなア・・・」

新八「オイッ

ダサいから止めて！！
俺の父ちゃん
パイロットつて
言つてる子供なみに
ダサいよ！！

つていうかアンタら

何！？

飲んでんの！？」

銀時「あん？

勝負はもう

始まつてんだよ

よし次は

テキーラだ！！」

土方「上等だ！！」

新八「勝手に

飲み比べ対決
始めちゃってるよ・・・」

隊士「おお！！

そうこうしてるうちに
こっちはもつと苛烈に！！

アレ！？

ちよつと待て！！

二人とも明らかに

メットつけたまま

じゃねーか？

ハンマーないし！！

なんかジャンケンも

してねーぞ！！

ただの殴り合い

じゃねーか！！」新八「だからルール守れって
言ってるだろうがア！！

しょーがない

最後の対決で

決めるしかない

銀さっ・・・」

オゝエゝエゝ（吐く音）

新八「オイいいい！！

何やってんだ

このままじゃ

勝負つかねーよ」

銀時「心配すんじゃないよ

俺ア まだまだやれる

シロクロ

はつきりつけよーじゃ
ねーか ヒック

このまま

普通にやっても

つまらねー

ここは どーだ

真剣で

“ 斬ってかわして
ジャンケンポン” に
しねーか! ?

土方「上等だ コラ」

銀時「お前

さつきから

『上等だ』しか

言ってねーぞ

俺が言うのも

なんだけど

大丈夫か! ?

土方「上等だ コラ」

銀時「いくぜ

二人「斬ってかわして
ジャンケン

ポン! !」

銀時「とったアアア! !」
ザン（斬る音）

全員「・・・！」

ズウン（倒れる音）

銀時（木に向かって）

「心配するな

峰打ちだ

まア これに

懲りたら もう

俺にからむのは

止めるこつたな」

土方（定春に）

「てめエ さっきから

グーしか出して

ねーじゃねーか

ナメてんのか！！

全員「・・・」

山崎「お互い

妙な上司がいて

大変ですね

一緒に

飲みましょーか

グチを

肴にして」

《――父上

やっぱり 花見は大勢

でやるものですね

父上がいなくなって以来です

こんな楽しいお花見は《

銀時「アレ？

どこどこ？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6421j/>

silver-soul

2010年10月9日06時32分発行